

2013年台北展報告

はじめに

2013年の台北国際自転車展覧会は3月19日（水）から23日（土）までの4日間、台北市内の世界貿易中心南港展覽館を主会場として開催された。展示会と併せ台湾自転車業界の近況を調査したので、報告する。

●台北展について

1. 来場者は前年比12.6%増

展示製品、来場者数について昨年と比べ、全体的な傾向に大きな変化は見られなかったが、展示製品は更に高価格化、高付加価値化が進んでいたようだ。

来場者は前回報告したように、経済成長著しく自転車市場が拡大している東南アジア諸国からの者が増加している模様である。台湾の自転車工業会である台湾区自行車輸出業同業公会（TBEA）によると、全来場者は前年に比べて12.6%増の約2万8千人だった。そして海外からの来場者は中国（香港含む）、日本、アメリカ、韓国、ドイツ、シンガポール、タイ、マレーシア、イギリス及びオーストラリア等107の国と地域から前年比11.3%増の7,179人だった。

来場者数データ

	2013	2012	2013 / 2012 増減
(A) 海外バイヤー	7,179	6,448	11.3%
(B) 国内バイヤー	19,521	17,045	14.5%
(C) 一般来場者	1,322	1,399	-5.5%
(A) + (B) 合計	26,700	23,493	13.7%
(A) + (B) + (C) 合計	28,022	24,892	12.6%

データ出所：TBEA



2. 中国からの来場者増加

2010年7月からの台湾政府による「中国人個人向け観光ビザ発給要件緩和」の実施に伴い、2011年開催から中国からの来場者が徐々に増えている感があったが、特に今年は大きく増加した。

TBEAのデータによると、全ての海外来場者のうち、中国（香港を含む）からの来場者の占める割合が2012年の16.8%から約22%に増加している。

中国国内では上海、天津、南京、寧波等で巨大な展示会が開催されているが、3年ほど前までは電動自転車为主体だった。最近は国民の健康志向による中高級スポーツバイクの人気からそれらの展示会でもスポーツバイクの出展が増加している模様で、そのような事情から彼らは、その分野で一步先行している台北展に対しても関心を持ち始めたことが考えられる。

このような中国からの来場者の増加は台北展に出展している日本企業のビジネスにも好影響を与えているようで、例えばある日系企業では今まで中国で宣伝したことがないにも拘わらず中国からオーダーが舞い込み始めたと驚いている。台北展の影響は台湾海峡を越えて広がりつつある。

海外からの来場者の上位5ヶ国

順位	2013		2012	
	国名	全体に占める割合	国名	全体に占める割合
1	中国(香港を含む)	21.97%	中国(香港を含む)	16.84%
2	日本	11.05%	日本	12.59%
3	アメリカ	9.89%	アメリカ	8.76%
4	韓国	6.28%	韓国	7.06%
5	ドイツ	4.18%	ドイツ	4.90%

データ出所：TBEA

3. 2015年からの7月開催を検討

中華民国対外貿易発展協会（TAITRA）は台北展の開催時期を早めることを既に5年前から検討していたが、ついに今回、TBEAの羅祥安理事長が20日の開幕式での挨拶で、台北展について2015年からの7月開催を検討すると正式に明らかにした。

欧米人バイヤーは台北展に来る前に、前年の晩秋に台中の幾つかのホテルを会場として開催されている商談会（バイクウィーク、ライドオン）や、それに併せて開催される台中近辺のメーカーの工場での商談に参加するケースが増えており、台中の商談会は年々盛況になっている模様である。

そのため欧米のバイヤーを中心に台北展の3月開催は遅いとの声が以前から上がっていた。さらに最近では上海展等ではスポーツバイクの出展が増加し、競合の度合いが高まっている。それらの事情が7月開催検討の背景にあると思われる。

今回の展示会終了後、主催者であるTAITRAが出展者から意見の聞き取りを行い、決定することになっている。

また、今年のバイクウィークは11月5～8日に開催されるが、終了直後の9日から17日まで台湾一周ツーリングが開催される計画である。昨年まではそれぞれの開催時期が離れていたが、今年から海外バイヤーがツーリングに参加し易くなることでさらにバイクウィークが盛況になる可能性がある。



4. 2016年から展示面積が2倍に

台北展が主会場として使用している台北世界貿易中心南港展覽館の展示面積が2016年から2倍に拡大される。南港展覽館の隣に建設予定の2号館が2016年に完成するためである。

建設地との間には道路と高架線があるが、それらを跨ぐ陸橋のようなものを建設し現在の展示会場と一体化させる計画である。

完成すると、現在の出展待ち分と野外開催分を全て吸収できるということだった。

5. 展示会データ

出展企業数は前年比1%増の1,103社、ブース数は1コマ増加した。

年	2013年		2012年		2011年	
	国外	国内	国外	国内	国外	国内
出展企業数	291	812	285	807	240	708
合計	1,103		1,092		948	
ブース数	801	2488	801	2,487	746	2,314
合計	3,289		3,288		3,060	

データ出所：TAITRA

◆ 2014年の会期：3月5日～8日

6. 設立25周年を迎えた栄輪科技

台北展開幕の前日に「栄輪科技股份有限公司」は設立25周年記念式典を開催した。場所は台北市内の圓山大飯店の最上階ホール、参加者は台湾や欧米、日本の完成車メーカーなど同社の顧客、台湾業界の関係者等約550人であった。



同社の小林大裕董事長は挨拶で、「1988年の創業以来、ものづくりの集団としてお客様のニーズやご期待に応えるべく、品質、製品開発の向上に取り組んで来た。1987年に日本から完全に拠点を台湾に移し1988年から操業を開始した。2001年に中国深圳工場、2004年に昆山工場を設立し、2012年には昆山第二工場を設立した。25周年という節目を機会にこれまで培ってきたことを更に進化発展させ、価値ある事業を創造し、皆さまの期待に添えるよう従業員一同努力を重ねる」という趣旨のことを述べた。

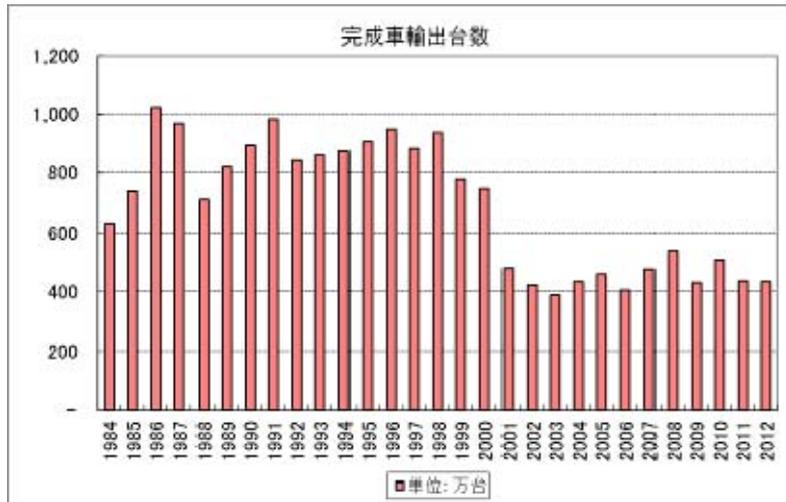
今年のブースではサスペンション以外に、自社開発のユニットを搭載した電動アシスト自転車を出展。メインターゲットは欧州で、日本向けにも輸出する予定とのことである。



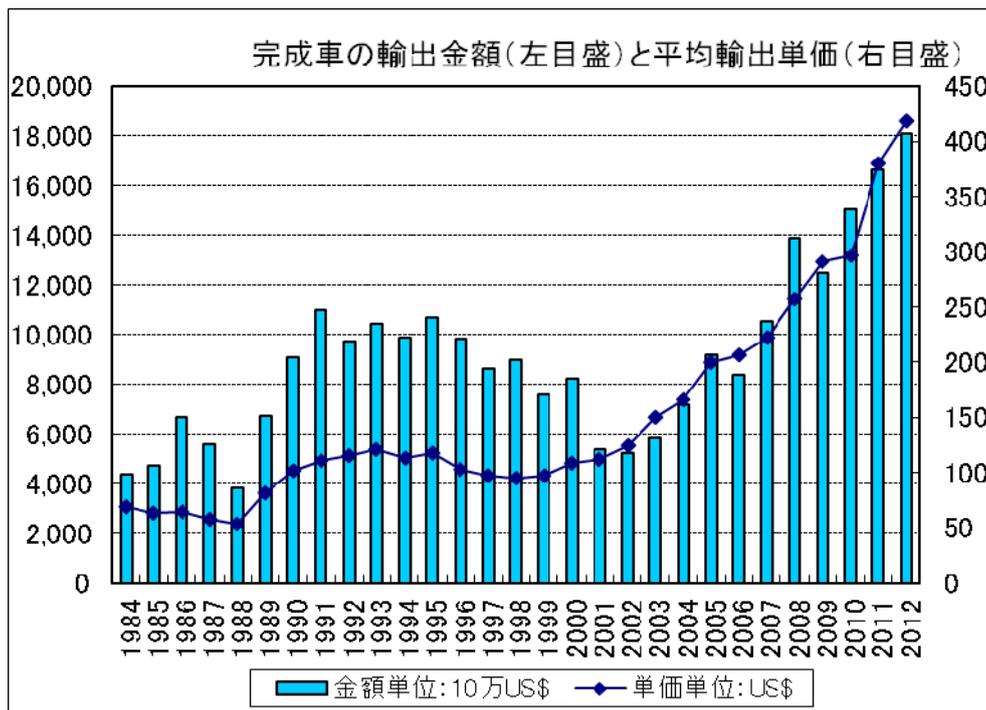
●台湾自転車業界の輸出近況について

1. 400万台を維持、高価格化が継続し平均単価は417.5ドルに

台湾区自転車輸出業同業公会によると、台湾の2012年の輸出台数は、前年比1.1%減の432万8千台で、400万台のレベルは維持している。



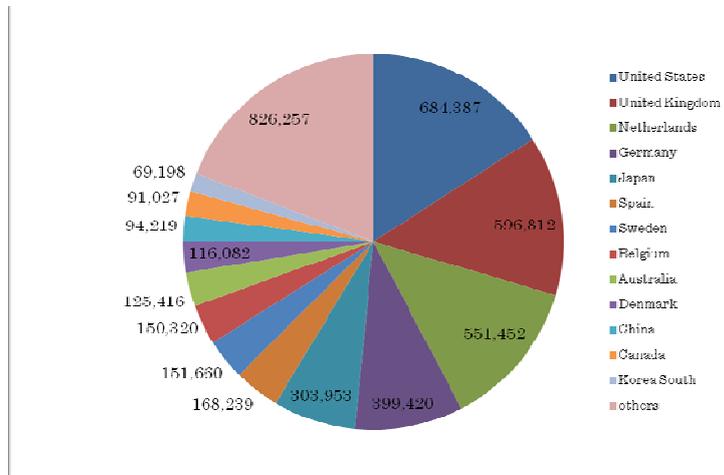
輸出金額は同 8.7%増の 18 億 706 万 US ドルと好調である。平均単価は同 9.9%増の 417.49 ドルで、2000 年の単価 109.02 ドルに比べ約 4 倍となり、台湾業界が追及している製品の高価格化が下記グラフの示すように 2000 年初頭から 10 年間以上も継続している。



2. 先進国中心に輸出

輸出先を国別に見ると、欧米諸国や日本など所得水準の高い先進国中心となっている。

輸出単価は 716.3US ドルのオーストラリアを筆頭に、カナダ 604.3 ドル、米国 591.1 ドル、ベルギー 541.8 ドル、韓国 523.3 ドルと続いている。



データ出所：TBEA

2012年仕向け地別輸出		
	台数	単価 US\$
United States	684,387	591.09
United Kingdom	596,812	266.87
Netherlands	551,452	468.97
Germany	399,420	332.06
Japan	303,953	389.69
Spain	168,239	277.79
Sweden	151,660	164.86
Belgium	150,320	541.77
Australia	125,416	716.33
Denmark	116,082	247.23
China	94,219	480.67
Canada	91,027	604.31
Korea South	69,198	523.30
others	826,257	—
Total	4,328,442	417.49

3. 中国との貿易は台湾の圧倒的な輸入超過

3-1 中国向け輸出

中国との貿易については、2011年1月から中台間のFTAであるECFA（兩岸經濟協力枠組協定）が発効し、台中双方の輸入関税が撤廃された結果、2012年1-12月の完成車の輸出台数は、前年比178.6%増の9万4千台、総金額は157.9%増の4,530万USドルとなっている。

主にMTB、ロードバイク、クロスバイクなどの車種が輸出されており、平均単価は480.7ドルと、先進国向けと同水準となっているが、2011年の519.3ドルから7.4%下降している。

現在大手台湾メーカーが中国で新工場を建設し、急速に生産規模を拡大するとともに製品のグレードが上昇しているため、高級車の中国向け輸出の増加がいつまで続くのかは不透明である。

部品の輸出も増加しており、前年比 38.3%増の約 9 千万ドルで、フレーム、ホークの割合が最も多く 25.9%で、次いでブレーキが 20.7%となっている。

<2012 年 台湾の中国向け輸出>

	2012 年 1-12 月 数量	2011 年 1-12 月 数量	2012/2011 比較(%)	2012 年 1-12 月 金額(US\$)	2011 年 1-12 月 金額(US\$)	2012/2011 比較(%)	2012 年 平均単価 (US\$)	2011 年 平均単価 (US\$)	2012/2011 比較(%)
完成車	94,219 (台)	33,824 (台)	178.56	45,288,124	17,559,490	157.91	480.67	519.14	-7.41
部品	5,449,356 (kg)	4,313,339 (kg)	26.34	89,849,532	64,963,668	38.31	—	—	—

データ出所：TBEA

3-2 中国からの輸入

一方、中国からの完成車の輸入は前年比 0.39%増の 49 万 6 千台、金額にして同 32.1%増の 2,872 万ドルと、輸出の約半分の金額となっている。平均単価は 58.0 ドルで輸出単価の 8 分の 1 となっている。

このことは台湾では中高価格製品を、中国では低価格製品を製造し、お互いに補完関係にあることを示している。

中国からの輸入部品については、2012 年は 5 億 310 万ドルと、輸入完成車の 17 倍以上の額になっている。フレーム、ホーク及びそれらの関連部品が全体の 67.6 パーセントを占めている。

従って、完成車と部品を合わせた中国向け輸出額は約 1 億 4 千万ドルであるのに対し、中国からの輸入額は 5 億 3200 万ドルで、中国との自転車関係貿易において、台湾は圧倒的な輸入超過となっている。

<2012 年 台湾の中国からの輸入>

	2012 年 1-12 月 数量	2011 年 1-12 月 数量	2012/2011 比較(%)	2012 年 1-12 月 金額(US\$)	2011 年 1-12 月 金額(US\$)	2012/2011 比較(%)	2012 年 平均単価 (US\$)	2011 年 平均単価 (US\$)	2012/2011 比較(%)
完成車	495,429 (台)	493,512 (台)	0.39	28,720,711	21,740,443	32.11	57.97	44.05	31.60
部品	30,243,083 (kg)	32,700,606 (kg)	-7.52	503,097,656	453,197,109	11.01	—	—	—

データ出所：TBEA

4. EUによる対中国製完成車AD税について

EUが現在、中国製品に対して賦課しているAD税は今年6月から見直されることになっており、各国の業界関係者の間では現在、継続、撤廃について様々な予想が行われている。中国に多大な投資を行っている台湾自転車業界にとっても大きな関心事となっている。

そのような中、今回面談した台湾の大手完成車メーカーのある関係者は、AD税は撤廃される可能性が高いとの見方をしていた。

その主な理由として、「現在の中国はWTOにも加入し、経済政策がAD賦課の始まった1993年当時とは全く異なること、そして1993年から現在まで長期間課税されてきているが、そのような前例はなく、余程大きな政治的な問題が発生しない限り間違いなく撤廃されるだろう」とその関係者は話していた。

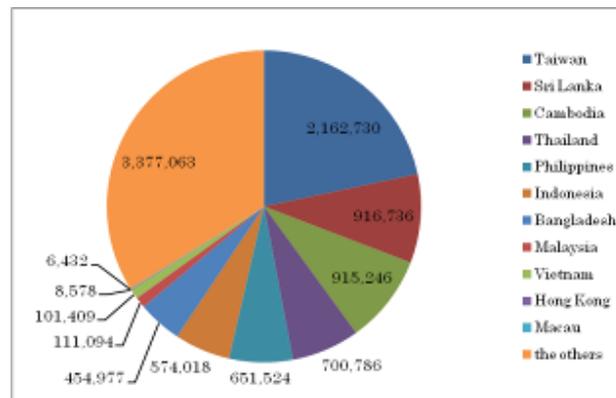
今後本件がどのようにEUによって見直されるか、注意が必要である。

4-1 積極的に東南アジアへの工場進出を進めてきた台湾業界

台湾企業と言えば、先ず中国への進出が思い浮かぶが、実は東南アジア、具体的にはベトナムとカンボジアへの進出を加速させてきたメーカーも多い。



欧州連合統計局（EUROSTAT）の統計によると、2012年の東南アジアからのEU向け輸出は台湾の2倍以上の460万台にも上り、全輸入の半分近くを占めている。



EU15ヶ国2012年輸入台数 データ出所:EUROSTAT

台湾企業がベトナムへ進出したのはEUが中国製品に賦課したAD税の回避や安い人件費を求めてのことである。（現在EUはベトナム製完成車に対しては10.5%を、部品に対しては1.2%の関税を賦課している）。EU15ヶ国は2012年に約11万台をベトナムから輸入した。

荘盟（本社台南、英文社名はSTRONGMAN）は本社が台南にあるMTB、電動自転車と前ホークのメーカーで、ベトナムはホーチミン市に2000年に進出し、現在従業員400名を擁する。現在、自転車（車種の詳細は不明）と前ホークを製造している。

郁瑤（本社台南）はASAMAという自社ブランド以外に、OEMによる完成車、フレーム等を生産するメーカーで、1991年にベトナムに進出した。埼玉県越谷市に日本支社を設け日本向けにも輸出している。現在の業績は台湾生産20万台、ベトナム20万台に加え、カンボジア40-50万台で、台湾製品は台湾国内と輸出向け、ベトナム製品はベトナム国内とカナダ向けである。従業員はグループ全体で2,000名以上（台湾300名、ベトナム700名、カンボジア1,000名）である。同社は当初、ベトナムを台湾並みにすることを目的に多くの部品メーカーを引き連れて進出したというが、ベトナム・カンボジアでの生産高、規模は既に台湾を凌駕するまでに成長している。

ただ、インドシナには産業集積がないので依然として現地で調達できる部品は限られており、ハイエンドの部品は中国等から取り寄せなければならない状況である。

	ベトナムに進出している台湾メーカー	製品
1.	鋒明國際責任有限公司 ACTIVE INTERNATIONAL VN CO., LTD.	サドル
2.	弘越責任有限公司 ALHONGA VIETNAM ENTERPREISE CO., LTD.	ブレーキ
3.	ALWAYS CO., LTD. ALWAYS CO., LTD.	自転車, 前ホーク
4.	郁瑤実業股份有限公司 ASAMA YUHJIUN INT'L VIETNAM CO., LTD.	自転車, 電動車(助力車), フレーム
5.	太宇工業責任有限公司 ASTRO ENG. VIETNAM CO., LTD.	フレーム
6.	越南百岳國際責任有限公司 BOR YUEH INTERNATIONAL (V.N.) CO., LTD.	一輪車, ギヤクランク, ウォーターボトル, ボトルホルダー
7.	京永(越南)OFFICE CONG TY TNHH TODAY	自転車
8.	合宇(越南)責任有限公司 CO-UNION (VIETNAM) CO., LTD.	ハブ, グリップ等
9.	宜興國際責任有限公司 GOLD WELL COMPANY LIMITED	アルミ合金によるフレーム等
10.	建大橡膠(越南)有限公司 KENDA RUBBER (VIETNAM) CO., LTD.	タイヤ, チューブ
11.	桂盟鏈條(越南)有限公司 KMC CHAIN (VIETNAM) CO., LTD.	チェーン
12.	連福輪胎股份有限公司 LINK FORTUNE TYRE TUBE CO., LTD. (VIETNAM)	タイヤ, チューブ
13.	建興工業股份有限公司 OLYMPIC PRO MANUFACTURING (VIETNAM) CO., LTD.	フレーム, 前ホーク
14.	享勵企業責任有限公司 SHEANG LIH CYCLE (VIETNAM) ENT. LTD.	リム

15.	越南勝法 SHENG FA (VIETNAM)	自転車
16.	萱華工業(越南責任)有限公司 SHUAN HWA INDUSTRIAL VIETNAM CO., LTD.	パイプ関係
17.	松田(越南)工業有限公司 SONG TAIN (V.N.) IND. CO., LTD.	前ホーク, ハンドルバー等
18.	莊盟責任有限公司 STRONGMAN CO., LTD.	自転車, 前ホーク
19.	旭生自転車(越南)責任有限公司 SUN RISE BICYCLE (VN) CO., LTD.	フレーム
20.	台發責任有限公司 TAIFA CO., LTD.	部品加工設備
21.	越南采岩國際有限公司 TSAI YARN INTERNATIONAL (VN) CO., LTD.	バスケット
22.	鉅成責任有限公司 V. I. P SPORTS CO., LTD. (VIETNAM)	フレーム, 前ホーク, シートボ スト等
23.	越南商揚實業有限公司 VIETNAM SHANG YANG INDUSTRIAL CO., LTD.	ヘルメット
24.	越南旺昇國際責任有限公司 WANG SHEND INDUSTRIAL CO., LTD.	リム, スポーク, グリップ, ハ ブ
25.	雅邦企業(越南)責任有限公司 YABAN CHAIN INDUSTRIAL (VIETNAM) CO., LTD.	チェーン, スプロケット等

出所：台湾輪彦国際有限公司

4-2 EU 関税ゼロのカンボジアにも進出

さらに東南アジアではベトナムの他にカンボジアにも進出した企業もある。カンボジアは下記の表に示すように広州の四分の一以下という安い人件費のほか、国内の経済特区では法人税、輸入関税の免除の優遇措置が受けられること、そして自転車に関してはEUから完成車も部品も全て輸入関税免除という優遇措置が与えられていることも大きな魅力となっている。EU15ヶ国は2012年に約92万台をカンボジアから輸入した。

地域名	ワーカー（一般工職）の月額賃金				
	プノンペン (カンボジ ア)	バンコク (タイ)	ホーチミン (ベトナム)	広州 (中国)	上海 (中国)
米ドル	82	286	130	352	439

(出所：ジェトロ)

カンボジアへの進出メーカーは全部で4社であり、そのうち3社が莊盟実業有限公司、郁瑤実業股份有限公司、京永実業有限公司という台湾メーカーで、残りの1社が中国メーカーである。

それらの台湾メーカーはカンボジア進出に際しては、ベトナムの隣国ということで“ベトナム工場増設の一環”という感覚で抵抗感なく進出できたということである。

莊盟のカンボジア進出は1994年、郁瑤は1995年である。京永は2003年にHigh Ride Bicycle名でベトナムに、そして2006年にはカンボジアにATLANTIC CYCLE CO., LTD.名でグループ最大の工場を建設している。京永のカンボジア製品はアメリカと欧州

向けに輸出されている。（今回の出張ではベトナム工場とカンボジア工場の位置付け、関係性までは調査できなかった）

残り一社の中国メーカーは、広州凱路仕体育科技有限公司という広東省広州市のメーカーで、カンボジアで MTB、クロスバイク、折畳車、子供車等を製造しており、台北展のブースでは“EU へは関税ゼロ”と前面に打ち出し、欧米人バイヤーを惹きつけていた。同社は「CRONUS」ブランドで、優遇措置の恩恵を活用し年間 30 万台を EU に輸出している。部品の調達については、カンボジア国内で車両価格の 30%を、中国からの輸入により 40%を調達している。カンボジアで調達しているのはサドル、チェーン、タイヤとなっている。



	カンボジアに進出している台湾・中国メーカー	製品
1.	荘盟実業有限公司 STRONGMAN CO., LTD.	自転車、前ホーク
2.	郁琿実業股份有限公司 不明	不明
3.	京永実業有限公司 AAND J (CAMBODIA) CO., LTD.	フレーム、BMX
4	広州凱路仕体育科技有限公司 CRONUS SPORTS SCIENCE & TECHNOLOGY CO., LTD.	MTB、クロスバイク、折畳車、子供車等

台北展での聞き取りにより報告者作成

4-3 東南アジア進出に躊躇する一部の台湾メーカー

一方で、上記の東南アジアに進出したメーカーの業績は台湾内でのみ生産活動を行っているメーカーにとって脅威となっている。格段に安い製造コスト、EU のカンボジア製品に対する優遇された関税率は、台湾の一部の低価格製品のメーカーにとっては競争条件として一つの魅力となっており、東南アジアへの進出を考慮しているところもある。

しかし、例えばカンボジア進出は下記のようなリスク、懸念が躊躇させている。

- ①EU のカンボジアに対する優遇措置がいつまで続くのか、不透明である。
- ②EU による中国製品への AD が近いうちに撤廃される可能性がある。
- ③インドシナに本格的に進出しても、EU が改めてそこに AD を賦課する可能性も完全に否定できない。

従って、今後 EU の下す決定は中国メーカーのみならず、台湾内のローエンド製品のメーカー、インドシナ半島の台湾系、中国系メーカーにとっても非常に大きな関心事となっている。

5. 台湾を代表する完成車大手 2 社は創業以来最高の業績

5-1 メリダ

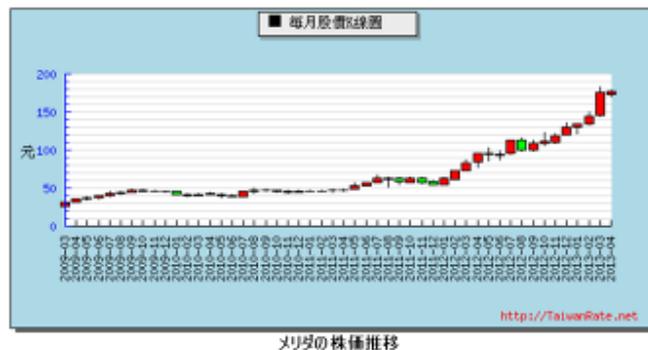
◎前年比 58%増の中国市場

2012 年は欧州向けが軟調だった反面、中国と米国市場の業績が大幅に上昇し、グループ全体としての営業収益は創業以来最高の前年比 28.25%増の 242 億元（約 798.6 億円）となった。

販売台数を見ると、グループ全体で前年比 25.53%の 227.6 万台、そのうち中国部門が極めて好調で前年比 58%増の 87 万台となった。2013 年は 110 万台を見込んでいる。

◎「自転車の株式王」

国民所得増加を背景に成長目覚ましい中国市場は、中高級車に特化している会社にとっては貴重な収益源となっている。



一つの例として、同社の株価の推移を見てみると、2012 年の 1 月から上昇し始めている。これは中国の中高級スポーツバイクの人気の上昇が始めた時期とピッタリと一致している。

好業績が台湾の株式市場で好感され株価が上昇した結果、曾崧柱董事長は台湾で「自転車の株式王」と呼ばれている。

◎「中国市場は今後 30 年間有望」

曾董事長は台湾のメディアで「過去 40 年を振り返ると、台湾自転車産業は米国市場から発展し始め、欧州市場に至ったが、今後 30 年は中国が大いにやりがいのある有望な市場となるので、経営の重心を中国に置く。13 億の人間のうち、ほんの 2%の富裕層が高級車を買うだけで、中国市場の未来は大変明るくなる」と語り、中国市場の重要性を説いている。

現在中国では同社製品は品薄状態で、3 月から 5 月まで生産余力のある台湾工場で高級車をフル生産して中国市場に送り込む計画とのことである。



また、江蘇省南通市に建設中の創業以来最大の工場の組立ラインは今年4月末に完成予定で、2014年からは年産20万台の生産能力を有する予定である。

台北展では、同社がイタリアのプロロードレースチーム「ランプレ（Lampre）」へ提供したロードバイクが最も強くアピールしたい製品となっていた。同社は今までMTBがメインだったが、このモデルの発表を契機としてT.T.用ロードバイクにも手を広げる方針である。

5-2 ジャイアント

◎「中国市場が最大の収益源」

2012年のグループ全体の販売台数は630万台で、そのうち中国市場はMTB、ロードバイクが伸びて前年比10%増の220万台だった。グループ全体に占める割合から見ると、中国分は22%で、米国の23%、欧州27%に肉薄してきている。

グループ全体の営業利益は前年比14%増の534.95億元（約1,765.34億円）と創業以来の最高額を計上した。

同グループの羅祥安CEOは「中国市場が最大の収益源となり、今後はアジア、欧州、北米市場の三本柱で行く」と語っている。

同社は現在、中国にある三工場の生産能力増強を図っている。2011年の第三四半期から昆山工場を稼働させ、2012年下半年は中国の天津、成都の2工場の生産規模拡大し、生産能力は2012年の250万台から2013年は350万台になった。車種については今後も高価格車の販売比率を積極的に高める方針である。

また、同社は全世界におよそ1万の販売拠点を有し、OEMでは強固な信用を有するほか、米国最大の専門店ブランドTrekとODM（相手先のブランド名で設計から製造までを手がけること）の長期協力関係を維持している。Trekは米国のみならず、中高級バイクが伸びている中国で非常に高い人気を誇っているブランドなので、ジャイアントにとって極めて大切なパートナーとなっている。

また、同社は台湾政府に対し自転車利用促進の働き掛けを行い、自らも台北市の公共レンタサイクルシステム（YouBike）に参加する等の活動を行っている。

製品開発について今年は、より付加価値の高いもの、ハンドルバーも含めて風の抵抗を抑えるもの、そして初心者でも速く走れるような方向を目指している。女性用バイクにはカーボンファイバー製品も開発した。

◎「中国では短期の利益は追わない」

中国国内市場については、“短期的な利益を追わず”、自転車の文化を伝え中高級車が主体となった市場に育成するという考え方で中国市場に向き合ってゆく方針である。

台湾工場は人件費のコストが上昇しているが、今までと異なるハイエンドの自転車作りに転換することで克服しようとしている。

今年の台北展のブースでは、新製品のロードバイク ENVIE(女性用)、PROPEL(男性用)を最もアピールしていたが、女性の来場者が熱い視線を送っていたのが印象的だった。



以 上